

「5節 西アジアと中央アジア -項目ごとに整理して考察」

《西アジアと中央アジア》

西アジアと中央アジアは乾燥地域が広く分布し、文化的にはイスラームが人々の生活に深く根づいている地域でもある。アルコール、アルカリ、ギブスなどの医学用語や化学用語がアラビア語に由来することからも分かるように、かつてこの地域の先進的な文化はヨーロッパなどに大きな影響を与えた。また原油や天然ガスなどの資源にもめぐまれており、日本も西アジアから多くの原油を輸入している。私たちの住んでいる日本とは自然環境も文化も大きく異なる地域であるが、レポートを通して理解を深めよう。

【1】地図帳P13～14、41～42、教科書P263を参考

- ・まず地図帳などをよく見て、陸地と海洋を区別しよう。次に地域は世界地図で見ると、どのあたりにあるのだろうか探してみよう。
- ・「黒海」は地中海につながっている「海洋」だが、「カスピ海」は西洋につながっていない世界最大の「湖」である。日本列島と大きさを比較してみよう。
- ・この地域は乾燥地域で、砂漠が多いことにも注意しよう。

【2】教科書P263を参照、学習書P153を参考

- ・西アジアと中央アジアの自然環境の特徴について乾燥地域の広がりに着目しながら理解しよう

【3】教科書P48を参照、学習書P46を参考

- ・高圧帯は周囲より気圧の高いところで、地表を押し大気力が大きく、雨の元となる水蒸気を含んだ大気の上昇が起こりにくいため、雨が少なく乾燥する。なお降水は水蒸気を吹くんだ大気が様々な原因で上昇することによって冷やされ、水滴となることにより生じる。

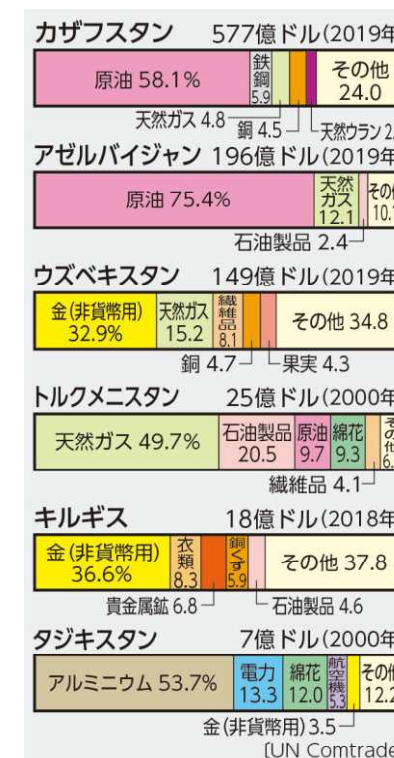
【4】教科書P264～265を参照、学習書P212～213を参考

- ・いろいろなものに神が宿ると考える日本人にとって、唯一絶対の神（ユダヤ教のヤハウェ、キリスト教の父なる神、イスラームのアッラーなど）を信仰する「一神教」は、わかりにくい面があるかも知れない。ここではイスラームについて基本的なことを学ぼう。
- ・西アジアはイスラームだけでなく、おなじ一神教（学習書142・213を参照）であるユダヤ教、キリスト教が生まれたところでもある。
- ・イスラームの教えやムスリムの生活について、学習書P212を読んでもみよう。

【5】教科書P266～267を参照、学習書P211を参考

- ・乾燥地域ではどのような農業が営まれているだろうか。
- ・外来河川については学習書P36・54の「外来河川」を参照。乾燥地域において流域に農業用水などを供給する。
- ・水の少ない乾燥地域で農業を行う上で、どのようにして水を得るかはとても重要な問題である。その工夫の一つであるカナート（教科書P266欄外の「カナートのしくみ」、学習書P47「カナートの断面図」を参照）とよばれる地下水路は特徴的である。地下を通すのは、できるだけ蒸発により水が失われるのを防ぐためである。

【6】教科書P269の図6「中央アジア諸国の輸出品」を参照



- ・地下から産する各種の炭化水素類を主成分とする液状の化合物を石油といい、とくに地中から産出されたままのものを原油という。
- ・この地域は世界最大の油田地帯であるが、原油に依存した経済から脱却することがこの地域の大きな課題である。
- ・各国の輸出品は、いずれも鉱産資源やエネルギー資源が中心である。ウラン鉱石や天然ガスの開発が進んでおり、近い将来、資源によって産業全体が活性化される可能性がある。しかし、経済発展を資源に頼ると、資源の枯渇によって経済が停滞する。そのため、資源の切り売りではない形で経済の道筋を描くことは大切だが、いずれの国も、その段階には至っていない。

## 「6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ」項目ごとに整理して考察」

### 《北アフリカとサハラ以南のアフリカ》

アフリカはサハラ砂漠を境に、北アフリカとサハラ以南のアフリカに大きく分けられる。北アフリカは乾燥地域が広がっていたり、ムスリムが多いなど、西アジアとの共通点が多い。サハラ砂漠以南は、人種的には黒人が多く住むところである。ともに長い間ヨーロッパの植民地として、政治的、経済的に支配を受けてきた。独立後もその時の経済構造から抜けきれず、多くの国が貧困にあえいでいる。

アフリカが抱える現代の諸問題は、植民地支配の歴史と深い関わりがあることを理解しよう。

### 【7】

#### 地図帳P47～48を参照、教科書P271・学習書P216を参考

- ・アフリカ大陸のほぼ中央を赤道が通っていることは、ぜひ知っておこう。
- ・サハラ砂漠は北アフリカの大部分を占める世界最大の砂漠である。
- ・よく「喜望峰」を「希望峰」と間違えたり、アフリカ大陸の最南端を「喜望峰」と間違えたりする。アフリカ大陸の最南端はアガラス岬である。地図帳で確認しよう。喜望峰は1486年バルトロメウ・ディアスが発見し、ポルトガル王が命名した。

### 【8】教科書P271を参照、学習書P216を参考

- ・アフリカは雄大な自然、悠久の歴史・文化を楽しむことができる地域である。アフリカに行く場合、黄熱病などの予防接種を受けるほか、滞在中にマラリアの予防薬を服用する必要があるが、準備をすれば、安全に旅行を楽しむことができる。

### 【9】教科書P272～273を参照、学習書P217を参考

- ・教科書P272「①1914年のアフリカの植民地分割」の図でその例を見てみよう。
- ・⑦は白人が黒人と黄色人種の有色人種を差別する人種隔離政策のことである。

### 【10】教科書P276～277を参照、学習書P219を参考

- ・「一次産品」、「モノカルチャー経済」については教科書P161を参照

### 【11】教科書P275を参照、学習書P220を参考

- ・北アフリカとサハラ以南アフリカの人々の生活は、どのように変化したのだろうか。

## 「はじめてのアフリカ」はどの国が良いの？ 初心者におすすめなアフリカの国をセレクト

### アフリカは危険な国ばかり？

アフリカへの旅行をハードルが高いと感じている人は多いのではないのでしょうか。しかし実際のアフリカは、治安がよく、ひとりでも安心して観光ができる国も存在します。そこで治安や交通網、観光のしやすさをもとに、「はじめてのアフリカ」におすすめな国を紹介します。

### 治安重視な人におすすめなルワンダ

ルワンダは、アフリカの中でも治安の良さで有名です。「ルワンダ虐殺」が起こって以後、国際社会からの注目や支援が集まったことで発展が進み、現在はITや教育が盛んな国として知られています。街並みも、ほかのアフリカの国と比較しても格段に綺麗で、人も穏やかなのです。ぼったくり被害に遭うことも少なく、交通の便も良いことから、ひとりでも観光しやすく、アフリカに初めて行くという人には、ピッタリの国でしょう。

### 歴史好きな人におすすめなのはやっぱりエジプト

「観光大国」として有名なエジプト。首都のカイロはもちろん、南部のルクソールや北部のアレクサンドリアなど、地方都市へのアクセスも良いので、長期でじっくりまわりたい人にぴったりの国です。日本人の在住者も多いので、日本食が恋しくなったとしても、簡単に日本食レストランを見つけることができます。また英語表記も多く、交通システムもわかりやすいので、海外旅行に慣れていない人にもおすすめの国です。

さらに、なんととっても現地人が外国人に優しいのがエジプト。エジプトの歴史やアラブ圏の文化を学びたい人は、ぜひ一度、足を運んでみてほしいです。

### 都会と自然、どっちも楽しみたいならセネガルがおすすめ

西アフリカに位置するセネガルは、アフリカのフランス語圏の中では、比較的発展していて、観光しやすい国です。首都のダカールでは、大西洋を望める高級ホテルや活気ある街並みを楽しめます。また、大型ショッピングモールやスーパーも多く、交通の便も良いので観光しやすいです。

一方、首都を出ると、手付かずの大自然や国立公園が残っており、アフリカの「都会と自然」の両方を楽しみたい人におすすめです。

### アフリカ旅行、トライしてみたい？

アフリカに行ってみたくなくなってきたのでしょうか。アフリカといっても、54か国（モロッコからの独立問題を抱える西サハラを含めると55か国）あり、地域ごとに大きな差があります。今回おすすめしたルワンダ、エジプト、セネガルを含め、治安の良い国もあるので、気軽に旅行することは可能です。